



ほんものを たべよう

提出日	8/ 火 水 木 金
	20 21 22 23
配達日	8/ 火 水 木 金
	27 28 29 30
翌々週分配達日	9/ 火 水 木 金
	3 4 5 6

Alter Weekly Order Catalogue

2024.8月5号

オルターの提案

- 本当に安全な食べものを手渡すために
- 「だれが・どこで・どのようにつくったか」の情報を日本一公開します。
 - 「国産」「無農薬」にこだわり、日本の伝統食を守ります。
 - 原料段階・飼育段階からポストハーベスト農薬、遺伝子組み換え、放射能汚染、トランス脂肪酸、食品添加物などを徹底的に追放します。
 - プラスチック容器・レトルト食品を追放します。

野菜

おすそ分け野菜の原点 西川さんの野菜セット

家族で取り組む完全無農薬有機農法

西川農園(和歌山県)

文責 橋口 淳子(オルター 企画部)



左から西川 年武さん、亮慈さん、美智子さん

固定的な会員制システムから いつでも注文できるように

農家の自給延長線上で食べさせていただく「複合自給野菜」の取り組みから四十数年、和歌山県橋本市の西川 年武さんご家族は安全安心な旬の野菜・果物をオルターへ出荷し続けています。

一度注文したら毎週届く固定的な会員制システムから始まった西川 年武さんの野菜セットは2020年1月以降、欲しい時にいつでもカタログから注文できるようになり好評をいただいています。また同年5月からはリピートくん野菜セットも開始しています。

完全無農薬有機農法で 季節の野菜、果物を露地栽培

現在、露地畑75a、果樹園70aで多品目を露地栽培し、なるべく不耕起栽培しています。野菜セットにはできるだけ毎週同じものが重ならないように青菜、果菜、根菜、少量の果物などが入ります。春には山菜やエディブルフラワー、秋には果物と四季折々バランス良く工夫されており、年間休まず出荷しています。

施肥には苦土石灰、自家製堆肥、自家製液肥を使用していますが、農薬は一切使用していません。自家製堆肥と液肥の原料はもみから、ぬか、草木、野菜残渣、果樹残渣で「ぬか」を含むためオルターでは自然栽培と定義していませんが、限りなく自然栽培に近い農薬不使用栽培です。一部の圃場では施肥をしていないため、梅、レモン、ゆずなどは自然栽培です。多めに作付けしているものはセットに入れるだけでなく、単品として注文できるように季節ごとに企画しています。

2024年に検査した硝酸イオン値の平均は20ppm(オルター目標 葉菜1000ppm、果菜・根菜100ppm)と極めて低く、安全安心で苦みやえぐみのない風味豊かな露地野菜です。

農薬を使わず何でも栽培できる自信がある

父の年武さんは「汚れなき土に播け」で有名な故・



梁瀬 義亮先生の慈光会で指導を受け、1980年代より家庭菜園から完全無農薬有機農法で始めました。当時は会社員をしながらお米を直播きし、当たり前のように手除草で栽培していたそうです。

28歳の時に農家となり、32歳で美智子さんと結婚し三人の息子さんがいます。野菜を車に乗せて売って回ったこともあったそうですが、販売先は自分で開拓してきました。

農家を始めた頃は施肥は鶏糞とおがくず堆肥を使用しましたが、2010年8月2週の表紙で紹介した時には草と少量の油粕のみ使用。現在は油粕の使用もなく、経験を積み重ね改善されています。直播きについては芽が出ないことがあるため、レタス、小松菜、ほうれん草など一部の野菜はポット苗を作って栽培しています。

今では「農薬を使わず何でも栽培できる自信がある。」と断言する団塊の世代。

「趣味と仕事と同じで満足しているけれど、仕事しか楽しみがない。でもね、人間の楽しみはやり続けると苦になると言うんですよ。今はそういう心境。」と教えてくださいました。

現在、三男の亮慈さんに自身の47年の経験を伝承しています。

「農業は突然はじめてすぐに出来るものではなく、施肥の量や時期など経験で覚えていくもの。」畑では仕事を分担せず、家族と一緒に作業をするということから、年武さんの息子に全てを経験させたいという思いが感じられました。

経験を重ね、完全無農薬有機農法を習得中

三男の亮慈さんは1993年生まれの30歳。大学では経営学を学んでいましたが、高校生の時に発症した癲癇で会社勤めができるか不安を感じ、2016年大学卒業後に就農し、家業である農家を継ぎました。未っ

子で農作業を手伝わされたことはなく、それまで農業の経験はありませんでした。草刈りや畑の整理から始め、外での農作業が暑くて辛かった。父母から完全無農薬有機農法の指導を受け、経験を積んでいます。

学生の頃、時々あった癲癇の発作はマインドフルネス瞑想(4拍吸って1拍おいて8拍吐く呼吸法)を始めから4年間治まっています。

同じ小・中学校を卒業した2歳年下の元パティシエ、侑加さんと結婚し、4歳と1歳の2人の女の子がいます。「毎年いも掘りの時期には友人家族も呼んで一緒に収穫を楽しんでいます。農家になり子供と長く過ごす時間が持ててよかった。今後はかぼちゃや根菜類を自身で栽培し出荷していきたいと考えている。将来は人を雇って大学で学んだ経営学を役立てたい。」と目標を持って取り組んでおられました。

将来は兄弟で西川農園を継承

次男の飛鳥さんは現在JRの整備士で夜勤の傍ら奥様と協力してキウイフルーツなどを有機栽培しています。数年後にはオルターに出荷を希望しています。将来農家となり、亮慈さんと二人で西川農園を継ぐ予定です。

野菜セットに同封されている「おたより」は美智子さんが書いています。畑の様子や野菜の状態、お料理の仕方や家族の様子などネタを探すのが大変とのことでしたが、長年のファンが多く、楽しみにしている会員も多いため引き続きお願いしました。

「おたより」はこれまでお届け品ニュースの裏面にも一部を掲載してきましたが、6月1週からWEBサイトで全文ご覧いただけるようになりました。今週お届け分をリアルタイムで更新していますので合わせてご覧ください。

西川さんの 野菜セット ☆☆☆

季節の野菜が6~8品目。果物が入る時期もあります。

●防除 農薬の使用はありません

●肥料

苦土石灰、自家製堆肥と自家製液肥(もみから、ぬか、草木、野菜残渣、果樹残渣)

●栽培品目

夏: 小松菜、エンサイ、リーフレタス、フリルレタス、とうがらし菜、青ジソ、赤ジソ、バジル、ネギ、とうもろこし、トマト、万願寺、キュウリ、ナス、オクラ、ズッキーニ、ゴーヤ、スナップえんどう、キヌサヤ、インゲン、枝豆、玉ネギ、人参、小カブ、大根、ラディシュ、すもも(ソルダム)、すもも(大石早生)、びわ など

秋: チマサンチュ、エンサイ、小松菜、ネギ、菜花のまびき菜、赤カブのまびき菜、大根葉、人参葉、小カブまびき菜、さつまいもの芋づる、なす、オクラ、ささげ、万願寺、きゅうり、ピーマン、伏見

甘長とうがらし、黒豆枝豆、すじなしいんげん、紅ズイキ、じゃがいも、子芋、玉ネギ、人参、ゆず、レモン、富有柿、たねなし柿 など

冬: リーフレタス、ほうれん草、春菊、菜花、小松菜、サラダ水菜、水菜、白菜、チンゲンサイ、ネギ、ブロッコリー、インゲン、万願寺、ピーマン、カブ、赤カブ、玉ネギ、里芋、親芋、人参、さつまいも、大根、ゆず など

春: 野草天ぷらセット(つくし、よもぎ、山人参、すぎな、なの花、ボケの花)、エディブルフラワー(ボタン桜、あけびの花、つばきの花、春菊の花、菜の花、赤芽、よもぎ)、さくらの花、山東菜のなの花、ネギ(坊主)、チンゲン菜、小松菜、ほうれん草、菜花、水菜、大根葉、ハンサムグリーン、サニーレタス、クレソン、白菜、ブロッコリー、キヌサヤ、ニンニクの芽、葉玉ネギ、人参、金時人参、銀杏、淡竹、みょうが茸、キウイフルーツ など